さいたま市障害者社会参加推進センターだより

ぷらネット

第46号

令和６年度　さいたま市

障害者週間　市民のつどい

みんなちがってみんないい

12月7日（土）　10：00～15：00

プラザノース・市民広場・きたまちしましま公園

……プラザノースでの開催が定着し、過去最高の来場者でにぎわいました……

基調講演　稲川淳二氏　「大切に思うもの」

……重い障害のある息子さんとの日々、感謝。命の尊さを語ってくださいました……

～障害がある人もない人も共に暮らしやすい街を目指して～

市民のつどい　実行委員長あいさつ

中野　勇

中野会長（実行委員長）

さいたま市「障害者週間」市民のつどいを12月７日（土）に、北区のプラザノースにて開催いたしました。この会場は３年目となります。

この市民のつどいは、障害者週間における重要なイベントとして歴史を重ねてきました。さいたま市にノーマライゼーション条例のあることに誇りを持ちながら、誰もが住みよい街づくり、障害者の社会参加の促進をさいたま市から発信したいという思いで、実行委員会を形成し、準備してきました。

当日は、市民広場では、式典、さいたま市消防音楽隊による演奏、ふれあいステージ（各団体の歌やダンス）などの催し物に加え、福祉施設・事業所の販売や展示、販売飲食物のイートインコーナー。２階ギャラリーでは各団体の展示や出張事業、作品展、パラスポーツ体験が終日開催され、隣接する「きたまちしましま公園」では、福祉事業所による販売等の出店があり、エリア全体に賑わいがありました。

基調講演は、「『大切に思うもの』～障害のある人もない人も共に暮らしやすい街を目指して～」と題し、タレントの稲川淳二さんでした。ここでは怪談家としての稲川さんではなく、題名にあるテーマの「実践者」として、バリアフリーや人権がテーマの講演会活動やパラアーティスト支援について全国で活動を展開されていることや、その活動を支えているのが、先天性疾患で重度の障害者である次男が生まれてきたことで人生について考え方が大きく変わったこと、そして、父親としての反省について「我が事」として語ってくださいました。優しく切々と、時には熱く語り、来場者に大きな感動を与えてくださいました。

一日穏やかな天気に恵まれ、昨年を大幅に上回る約２７００人の入場者があり、各会場はたくさんの方々で活気にあふれ、サブテーマの「みんなちがってみんないい」を様々な方々に伝えることができたと思います。

今後もこのイベントを通して、障害者の社会参加を進めるとともに、市民の方々に障害に対しての理解を深め、イクルージョンを追求していきたいと考えております。

参加されたたくさんの方々、実行委員を始め各団体、障害関係施設・事業所のみなさん、ありがとうございました。

障害者週間とは…？

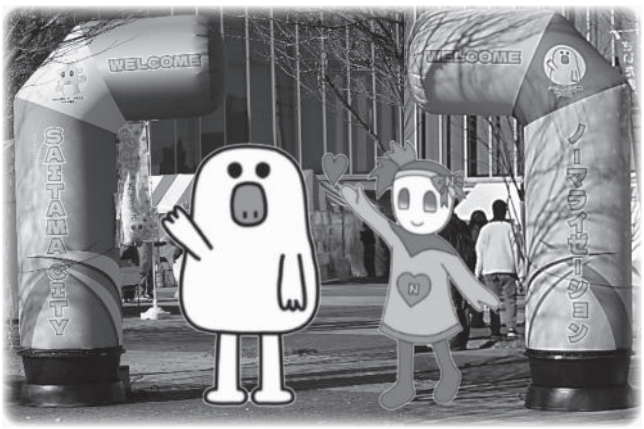
毎年12月３日から12月９日までの期間は障害者週間です。

障害者週間は、障害者基本法によって定められています。国民の間に広く基本原則に関する関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加することを促進することを目的としています。

ノーマライゼーション条例

さいたま市では２０１１年全国の政令指定都市に先駆けて「さいたま市誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例」を制定しました。

この条例は障害がある人もない人も、安心して生活できる地域社会を目指すもので、障害のある人が地域の一員としてさまざまな活動ができるまちづくりを目指しています。



市民ひろばにノーマライゼーション啓発のゲートが設置されました

さいたま市消防音楽隊

オープニング

今年も消防音楽隊の演奏でスタート♪

渡辺団長

清水市長

式典

心の輪を広げる体験作文・障害者週間のポスター表彰式

全国障害者スポーツ大会　さいたま市選手団結果報告式・解団式

～ にぎわう 市民広場 ～

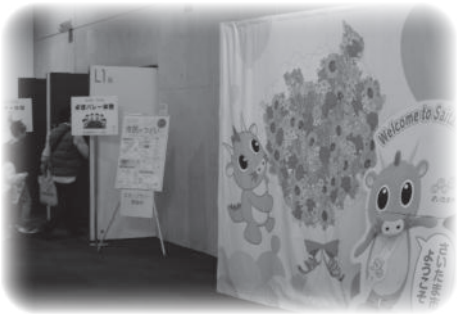
かものみや

みっくすビート

ゆめの園

【多目的ルーム】プラザノース２階

全国障害者スポーツ大会写真展
卓球バレー体験（埼玉県卓球バレー協会）
ボッチャ体験（あいおいニッセイ同和損保）



生きる社会を目指して

屋内イベント

【交流スタジオ】プラザノース２階

共同劇放映
（大宮ろう学園×大宮国際中等教育学校）
手話教室・要約筆記体験コーナー
（さいたま市聴覚障害者協会）
誰でも楽しめるダンス
（さいたま市手をつなぐ育成会）
障害者団体活動紹介の動画放映

スタンプラリーも
楽しかったよ！

屋外イベント 市民広場&しましま公園

音楽に合わせて体を動かすムーブメント
（NPO法人ビーポップ）

手話応援に関する展示・反射神経ゲーム
（大宮アルディージャ）
ブラインドサッカー体験・モルック体験
フライングディスク体験　（インクルラボ）
デフリンピック応援ブース
ノーマライゼーションコーナー

障害者団体・事業所販売コーナー
バザー　キッチンカー

福祉の就職相談　（さいたま市障害政策課）

【ギャラリー】　プラザノース２階

団体活動紹介の展示・体験
さいたま市身体障害者福祉協会
さいたま市手をつなぐ育成会
さいたま市肢体不自由児・者父母の会
埼玉県自閉症協会さいたま市地区
その他障害者団体

点字・ゲーム・無料マッサージ体験
生け花展示　さいたま市視覚障害者福祉協会

障害・難病者制作作品展
絵画、写真、書、工芸、手芸などの作品展

ヘルプマーク・盲導犬の普及 等
一般社団法人インクルラボ

高次脳機能障害　ピアサポート活動 等
高次脳機能障害さいたま これからの道

精神障害・展示相談コーナー 等
精神障害者家族会連絡会

誰もが尊重され共に

スマホ体験会　ICTサークル浦和
けやきパソコンボランティアクラブ

消費生活　さいたま市消費生活総合センター
・消費生活に関する情報の提供と啓発品の配布

消防・防災　さいたま市防災アドバイザー
さいたま市
・防災に関する情報提供
・防災用品展示・防災関連ゲーム
・災害時障害者支援用バンダナ配布

【セミナールーム５】　プラザノース３階

展示＆『マイクロトーク』
さいたま市精神障害者当事者会 ウィーズ

基調講演

「大切に思うもの」

稲川淳二氏

～障害のある人もない人も共に暮らしやすい街を目指して～

父として

稲川淳二氏の講演と聞いて怖い怪談話だと思い、敢えて講演を聞かなかった人もいたようですが、実は、生まれながらに重い障害のある子どもとの親子関係の機微を切々と語り掛け、会場も稲川氏本人も感極まり、涙する場面もありました。会場で聞いている人たちも共感できる場面も多々あって、より一層感動を与えたのではないでしょうか。

障害を持つ子どもの親として、皆、一度や二度は誰しもが何で・どうして・何故うちの子がと計り知れない思いを、どうすることも出来ない経験をしたことは有るのではないでしょうか。

稲川氏は、入院中息子の面会に行き、二人だけになった時に幾度となく手を掛けようとしたこと、それがお互いの為になると信じていたこと、思い留まって良かったとつくづく思わされたこと等、鬼気迫る熱演に、我がことと重ね合わせてより一層感動し、心を釘付けにされてしまいました。

また、父親として生計を維持するためには、夜の営業もあり、中々、息子の傍に居てあげれなかった事のどうしようもない後悔と懺悔の念がひしひしと伝わってきました。

そんな中でも仕事仲間の損得を度返しした純粋な心温まる言葉に胸を打たれたこと等、二六歳で旅立たれた息子に自分は大きく成長させられたこと、今となってはとても感謝しているそうです。

この世にいらない命なんてない

稲川氏が最後に伝えたかったこととして、幸せな人は幸せを感じないのです。何気ない日常が幸せと感じられるのはとてつもない苦労を経験してきたからなのです。

この世にいらない命なんて一つもないのです。その尊い権利を何びとたりとも止めることは出来ないのです、と強く訴えておりました。

最後のご挨拶の際に背を向けてしばらく間がありました。涙を拭いて振り返り、にこやかに手を振って行かれました。

さいたま市手をつなぐ育成会

加藤　シゲヨ

～共に過ごす喜び～ ふれあいステージ

市民広場のステージ、午後からは障害者施設・学校・支援者の皆様によるパフォーマンスが繰り広げられました。

司会は、就労支援施設Ｂ型事業所「ＯＮＥＧＡＭＥ　さいたま」のメンバーが務めてくださいました。

旧優生保護法をテーマにした手話、華やかなダンス、ラテン音楽、子供たちの竹太鼓などで盛り上がりました。

・埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園
・ダンスフォーラム　BF クラス
・NPO 法人織の音アート福祉協会
・特定非営利活動法人　ゆうの樹
・社会福祉法人ハッピーネット
　ゆめの園みらいず大宮
・NPO 法人さいたま市障害難病団体協議会
　ボランティアグループ二人三脚
・一般社団法人　とまりぎ　BOOK

社会福祉法人ハッピーネット
ゆめの園みらいず大宮

埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園

NPO法人
織の音
アート福祉協会

ダンスフォーラム　BF クラス

特定非営利活動法人　ゆうの樹

市民のつどい実行委員会 リレートーク

「障害者週間市民のつどい」に参加して

好天に恵まれた12月7日、プラザノース、市民広場、きたまちしましま公園にて開催された市民のつどいに、初めてスタッフとして参加。

まず驚かされたのはそのスケールの大きさだ。この日を迎えるために、多くの関係者の方々が奮闘している姿が目に浮かぶ。

セレモニーはオープニングイベントのさいたま市消防音楽隊による演奏で始まり、屋外イベント・屋内イベントが開催された。

そんな中、私は屋外ふれあいステージに目がひきつけられる。

私自身も障害者として日々過ごしているが、同じ仲間がどうしてこんなに明るく演じることができるのか、今日の日を迎えるためにどれ程の努力があったのだろうか。それにくらべて自分は何を目標として日々を過ごしているのかを考えさせられた。

短い時間ではあるが演者と一体化し充実した時間を過ごさせてもらった。自分は障害に甘えて、逃げてしまっていると気づかされる。演者の明るい笑顔は、今日の青空のように神々しく感じられた。

気がつくと私は涙があふれ胸が一杯になっていた。そして、とても良い機会を与えてくださったことに感謝した。

稲川氏の基調講演で心に残った言葉「いらない命はない」、あたり前の言葉であって、今この命が軽んじられるニュースが多いように思う。

「いらない命はない」、世界中の人達にこの言葉を噛みしめて欲しいと思いながら私の充実した一日は終わった。

関係者の皆様、有意義な「市民のつどい」開催ありがとうございました。

日本オストミー協会
埼玉県支部
清水　順子

令和６年度　市民のつどい実行委員

編集後記

清水さんの原稿が胸に響き、編集作業を頑張らねば！と思っていたとき「ユマニチュード」という言葉に出会いました。これは、フランスで生まれたコミュニケーション・ケア技法で、根幹にあるのは「相手を唯一無二の大切な存在として尊重する」という思いです。

障害当事者が参画し、共に創り上げた今年の市民のつどいも、ノーマライゼーション条例の理念が拡がる共生の一日となりました。「誰もが大切なひとり、みんなちがってみんないい」思いを込めたぷらネット46号をお届けします。

さいたま市肢体不自由児・者父母の会（泉）

発行　さいたま市障害者社会参加推進センター
〒三三〇-〇八〇一
さいたま市大宮区土手町一-二二-三-一
大宮ふれあい福祉センター４Ｆ
ＴＥＬ　〇四八-六五三-七二七一
ＦＡＸ　〇四八-六五三-七三四一
https://www.saitama-planet.com/
e-mail saitamacity-handynet@bz03.plala.or.jp
発行・編集人　中野　勇